

第2回箕面駅周辺整備方針検討懇話会会議概要

(10月13日実施分)

議題1 報告及び確認事項について

- ・ワークショップメンバーと懇話会選出委員【資料1-1】
- ・前回の確認【資料1-2】

議題2 ワークショップ、アンケート調査の実施状況について【資料2】

議題3 箕面駅周辺整備の課題について【資料3】

- ・ワークショップで得られた課題
- ・アンケート調査で得られた課題

議題4 箕面駅周辺整備の方向性について【資料4】

- ・箕面駅周辺整備の整備コンセプト
- ・駅前広場
- ・駐車場
- ・駐輪場
- ・アーケード、街路等

主な意見

資料には、すでに整備方針や具体的に施設をどうするかということが書かれているが、その方針がコンセプトから導き出せないといけない。例えば、駅からの見通しを確保するという話があるが、なぜ見通しが必要なのが、コンセプトのなかで謳われてなければならない。コンセプトから最後のデザインまで、つなげることを念頭に置きながら、議論をしていくことが必要ではないか。

ワークショップ(以下WS)において、コンセプトについてどのように議論したら良いか、懇話会でご意見をいただきたい。

施設整備の個別具体的な話の前に、どういう場所にしたいか、みんなで議論していけば、おのずとコンセプトは見えてくるのではないか。

駅周辺の整備は、面的な見方で考えなければいけないと思う。滝の観光から商店街へと、回遊性をもたせることを考える必要がある。観光と商業、地域住民の利便性を一体的に考えるべきである。

「回遊性の確保」は重要なことである。それを少し柔らかい表現にした「歩き回れるまち」というのをコンセプトにするなら、アーケードはつなぐとか、市営駐車場の前を楽しく歩くためには、どうしたらいいかという話が出てくる。そういった話へとつなげられる共通の柱をいくつか見つけられたら、コンセプトに近づく手がかりになると思う。

「箕面らしさ」は抽象的なので、もう少し具体的なコンセプトが必要ではないか。

具体的なもので、いつも唱えているのは、「出会いのまち、デート通り」である。滝道からシンボルロードへと回遊性を確保し、何か楽しいことがある、何かに出会えるまちにしたいと思っている。

中心市街地活性化基本計画、サンプラザ等公共施設再配置計画、そしてこの箕面駅周辺の整備計画は連続性があると思っている。連続性があるので、今までの計画のコンセプトに基づいて話を進めていくのか、それとも一からコンセプトについて議論していくのか。

この整備計画のベースには、中心市街地活性化基本計画があり、まちづくりの基本的な方向は決まっている。ただ、箕面駅周辺の「面」を意識した施設整備のコンセプトを作る必要がある。

まちづくりの大きな方針については、上位計画ですでにつくられている。今回は最終的に施設整備、空間整備にもっていかなければいけない。どういう施設整備か、空間整備かということが見える言葉、内容のものでないと、目的は達成できない。具体的な空間イメージ、整備イメージが見えるコンセプトが、今回はふさわしいと思う。

整備をしていくうえで、柱になり、基礎となるコンセプトを考えていただきたい。整備方針を貫く一つの考え方となるようなコンセプトを、WSで議論して、つくっていただきたい。

まとめ

- ・ 箕面駅周辺の整備コンセプトをワークショップで議論し、そのコンセプトから整備方針最後のデザインへとつながるように検討を行う。
- ・ コンセプトは、具体的な整備イメージ、空間イメージがわかるようなものとする。コンセプトを考えるときに、重要な視点の一つとして、回遊性の確保がある。

